

## 序 論

「何がよいマナーか」「何が悪いマナーか」を決めるのは、それぞれの社会の習慣、伝統つまり、文化である。しかも、一つの同じ社会の中でも、階級差や地域差により、感じ方は微妙に変化する。また、同じ個人でも、家族だけといる場合とフォーマルな席とでは、当然マナーも違って来るだろう。そうした様々な“差”を考慮に入れつつも、ある国でごく一般的に「よいマナー」とみなされているテーブル・マナーは何か、本調査は焦点をあてることにする。

例えばある国を訪れることになったとすると、食事に関する具体的な質問が浮かぶのではないだろうか。

食事の前に、何か挨拶をするのだろうか、音をたててもよいのか、食器を持ち上げてよいのか、食べていない時には、手はどこに置いたらよいのか、げっぷのような生理的現象はどうするのか、指を使ってもよいものはなど、多くの疑問に直面することになる。

「日本ではこれで失礼には当たらない」と我流を押し通すのも1つのやり方かもしれないが、それによって相手に不愉快な思いをさせる可能性もある。

行く前には、それぞれの国のごく一般的なテーブル・マナーについての知識を持つことが必要であろう。と同時に、“欧米諸国”を一括して考えてしまうことにも問題がある。似た面は多いものの、違っている点もあるからである。やはりそれぞれの国に即した知識を持つことが望ましいと言える。

本調査は、地域社会研究所よりの研究助成金によってなされた。同研究所の松方健前常務理事、宮脇泰常務理事、大間知孝禮部長、伊藤博美前部長に対し心から御礼を申し上げる次第である。またこの調査に関しては多くの国の方々にお世話さまになった。敬称を略して、以下にお名前を列挙させて頂きたい。特に御礼を申し上げたいのは、

### <国内でお世話になった方々>

赤間幸子、池田美智子、石崎優子、大和田滝恵、香川務、香川玲子、岸トシ、斎藤英美、斎藤弘子、清水睦子、住吉薫、竹中和子、田中文江、永田洋子、平野加代子、藤井清子、森深雪、山本敦子、和田敦子、渡辺啓子の諸氏である。また、国別にお世話になった方々のお名前を記すと、以下の通りである。

英 国            Christopher Barnett, Vanessa Hardy, Janet Kershaw, Mark Kershaw,  
Anne Read, Brian Read, John Wilson

仏国	Muriel Jolivet
独国	Susanne Kraas, Irmela Beger, Melanie Trede, Johanna Hauschildt, Kay Hauschildt, Atsuko Reimer, Brinkmann, Ulrike von Trott zu Solz
スイス	Lorenz Bichler
スペイン	Rosario Lozano, Maria del Carmen Pastor, Rev. Alberto Astigueta, S. J. 石崎優子
ハンガリー	Ignác Orova, Peter Törvényi
ロシア	セルゲイ サウハット、森深雪、奥山ガリーナ、ユリア ニチャーギナ、 吉住エレナ、ヴァディム ボクロフスキー
ウクライナ	Andrew Volodymyrovych Buben, Marilyn Sharko, Walt Sharko
米国	Suzannah Tartan, Mary-Louise Tamaru, Joan Harvey, William Harvey, Mary Clark
豪州	Elisabeth Ginsburg
ネパール	香川務、香川玲子、永田洋子
韓国	朴勝斌、金錫萬、赤間行三、李淑子、金畢順、李英愛
中国	王愛平、大和田滝恵、赤間慶一、朱蕾、嚴学勤
印度	コランタク サチン、サンジャイ バランゼベ、恒吉一宣、Madhu Jain, Rev, Cyril Veliath, S. J.
バングラデシュ	アラーム シャハ
インドネシア	トリ・バスキ、ハリアクティ、ダリヨ、ロッシー、住吉薫、安中富美
タイ	藤井清子、Pornpen Watanabe
サウジアラビア	毛利彰介、毛利恒子、山本敦子
イラン	Furangiss Wagner
ヨルダン	池田美智子、Beggie Abujabe

アルゼンチン Maria Cristina Canestri, Bernard Astigueta

チリ Maria Eugenia Valdés de LLanos

ウルグアイ Ura de Tau teuolo